

別添 平成30年度飼料用米多収日本一 中国四国農政局長賞 受賞者の概要
「単位収量の部」受賞 カンドーファーム株式会社(島根県松江市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ミズホチカラ	約4.9ha	750kg/10a	218kg/10a(※532kg/10a)

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 平成20年3月法人設立。お米を中心とした農産物の生産・販売を手掛け、「人と人をつなぐ農場経営」に取り組む。
- 代表取締役 たじり かずてる 田尻 一輝
- スタッフ 7名

【作付品目】

- 主食用米
コシヒカリ、特別栽培米つや姫、ミルキーQueen、きぬむすめ等 54.0ha
- 飼料用米
ミズホチカラ 4.9ha
- 小麦、はだか麦、そば、野菜 14.0ha

【取組のきっかけ】

- 飼料用米の交付金による経営の安定化を目指し、平成22年産から実需者との直接取引により飼料用米生産に取り組んでいる。昨年までモミロマンを導入し作付を行っていたが、平成30年産ではモミロマンの種子が入手できず、日本草地畜産種子協会の勧めもあり、初めて「ミズホチカラ」で飼料用米に取り組む。

【取組概要】

- 生産コスト低減を図るため、①基肥に肥効の長い緩効性肥料を側条施肥で投入することで労働力を軽減。②病虫害防除剤の苗箱処理剤の使用と、除草剤の移植時同時散布により労働力を軽減。③圃場で十分に乾燥させ収穫する立毛乾燥を実施し乾燥経費を低減と、収穫期における主食用米の収穫作業との分散によって効率の良い作業形態を実現。④実需者へ乾燥粳を直接フレコン出荷することで調製経費、包装容器代及び運搬経費の削減、等の取組を実施している。
- 生産性を向上させるため、灌漑水の供給が早い地域を選択して移植することで出穂を早め、登熟期間を長く確保するなど、多収品種の特性が発揮できる肥培管理によって高単収を得ている。
- 飼料用米をはじめ、水稻栽培にICTを導入し生育状況に応じた適切な栽培管理を実施していくことと、関係機関との連携により、多収品種を積極的に取り入れ更なる生産性向上を目指すこととしている。



島根県

松江市

